

(様式1)

平成25年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ・ 知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる
- ・ 自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる
- ・ 健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる

2 学校の特徴

- ・ 5学科7クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現の達成をめざした教育活動を推進しています。
- ・ 地元氷見市からの入学者割合が高く、地域との結びつきの強い高校です。また、生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動をはじめ教育活動全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・ 普通科4学級(160名)では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学への進学を目指しており、2年次より文理探究コース、理系、文系の類型別授業を編成しています。基礎重視の授業と個別面談を徹底し、生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動に取り組んでいます。
- ・ 専門学科は、農業科学科(20名)・海洋科学科(20名)、ビジネス科(40名)、生活福祉科(40名)を3学級で構成しており、基礎学力を重視するとともに、体験的学習や資格取得などを通して、進路実現に向けた知識・技術の習得に取り組んでいます。
- ・ 全学科を通して、地域の自然や文化と直接ふれあう「HIMI学」の履修、進路実現をサポートするキャリア教育の推進、学科の枠を越えた科目選択ができる総合選択制の実施など、特色ある教育活動を推進しています。

3 学校の現状と課題

本校では「文武両道」の校風を大切に、学習と部活動の両立に努めています。部活動では、ハンドボール部や自転車部等の全国的な活躍をはじめ、多くの成果を上げています。一方、学習や進路の面では、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、例えば国公立大学進学を希望する生徒や保護者の要望に応えることが一層求められています。さらに、生活面においては社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

以上のことを踏まえ、本校では、次の3つの観点から学校経営に係る様々な課題に取り組んでいきます。

- (1) 知性の向上（基礎・基本の確実な定着と自主的学習態度の育成）
- (2) 品性の向上（基本的生活習慣の確立と自他尊重の心の育成）
- (3) 信頼される学校づくり（家庭と地域との連携の推進）

(様式2)

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
(1)	校務運営	目標	①普通科(文理探究コースを含む)及び各専門学科の特性を生かして、学科間相互の連携・協力による効果的な学校運営に努める。
		計画	①教職員を適材適所に配置し、分掌組織と業務内容の明確化とともに、分掌間の連携を密にして教育計画の円滑な実現を図る。
(2)	教育課程	目標	①学科やコース・類型の特色を生かし、生徒の進路や適性に応じた教育活動を展開する。 ②3年間で段階を踏んだ系統的な指導ができる教育課程を編成する。
		計画	①進路志望や能力・適性を考慮した教育課程とし、生徒の全人的な発達を支援するようバランスのとれた教育に努める。 ②専門学科では、専門的な知識・技術の定着に重きを置き、資格取得や体験的な学習を通して、進路の多様化に対応できるようにする。
(3)	学習指導	目標	①生徒の学習意欲を高め、自主的な学習態度を確立することにより、生徒の自己学習力の向上を図る。 ②生徒の実態に応じた学習内容・指導方法を工夫するとともに、教員の実践的な教科指導力の向上を図る。
	重点1①	計画	① <u>生徒の実態調査や面接等により家庭学習の実態把握に努め、家庭学習時間を増やし、自主的な学習習慣の確立を図る。</u> ②生徒の実態に応じた学習内容を考慮してシラバスを作成し、中長期的な学習の到達度を明らかにすることによって生徒の自主的・計画的な学習を支援する。また、 <u>各教科の研修体制を確立し、互研授業などを取り入れることにより授業の改善を図る。</u>
	重点1②		③ <u>各学科の特色を生かした学習活動を推進し、小テスト等による計画的・反復的な学習、資格取得による体験的・実践的な学習を重視する。</u>
	重点2 全		
(4)	進路指導	目標	①自己の可能性を発見し、様々な進路選択肢の中から自己の能力と適性に応じた進路選択を支援する。 ②自己の生き方を考え明確な職業観をふまえ進路設計を立てさせる。
		重点3①②	計画

項目		目標・方針及び計画	
(5)	生徒指導	目標	①基本的な生活習慣を自主的に身に付けるとともに、社会的責任と役割を自覚して、自立的な行動ができる人間に育てる。
	重点4①	計画	① <u>県下一斉の「さわやか運動」や毎月行う「氷高さわやかデイ」を通して、挨拶の励行、遅刻防止、適切な服装の着用など基本的な生活習慣を身に付けさせる。</u> ②生徒会や校風委員による呼びかけや生徒相互のチェック機能により、生徒自ら誇りを持った学校生活を送れるように働きかける。 ③各学年や保健厚生部と連携し、生徒との信頼関係に基づく教育相談を推進する。
(6)	保健指導	目標	①心身の健康保持増進に関する理解と関心を深め、有意義な学校生活を営む能力と態度を育成する。 ②美化意識の向上を図り、環境整備を積極的に実践する態度を養う。
	重点4②	計画	① <u>生徒との対話によって心身不調の原因を早期に発見し、衛生管理への自己意識を高めるよう、各学年等と適切な連携を図る。</u> ②毎月1回保健委員による清掃点検を行い、生徒が自ら校内美化活動を行うようにする。
(7)	特別活動	目標	①学校行事、部活動ボランティア活動などへの参加を通して自主性・積極性・思いやりの心を育てる。 ②集団生活をとおして集団の一員としての自覚を高め、たくましく生きる力と好ましい人間関係を備えた生徒を育てる。
	重点5①	計画	①生徒が積極的に学校行事に参加できるよう生徒会が中心となって生徒や教職員の意見や要望を集約し、学校行事を充実させる。 ② <u>ボランティア推進委員会や各専門学科各クラブ活動を中心に、地域の施設訪問や地域活動へ積極的な参加を呼びかける。</u> ③ホームルーム活動や生徒会活動、部活動では、よりよい人間観を形成しながら自らを高める心を育てる。
(8)	読書指導	目標	①読書指導の充実を図り、読書を通して感性が豊かで思考力に富む生徒を育成する。
		計画	①図書室利用のオリエンテーション、読書会や教養講座の開催、「図書館だより」の発行等を通して、読書に関心を持たせる。 ②各教科の授業での図書館利用を推進し、図書館利用の機会を増やし、読書好きの生徒の輪を広げる。
(9)	家庭との連携	目標	①学校の様々な教育活動に対して保護者の理解を得るように努め、学校と保護者が連携して生徒の育成を図る。
	重点5②	計画	① <u>PTAだよりなど各種刊行物の発行を通して、学校の取り組みに対する理解を得て、より多くの保護者が参加するPTA活動を目指す。</u> ②氷高ほっとメール(教育・安全情報提供サービス)によるリアルタイムの情報発信を通して家庭との協力体制を図る。

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 1 -											
重点項目	学習活動（自己学習力の向上）										
重点課題	自主的学習態度の確立と教科指導力の向上										
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒(H24年度普通科、平日) <table border="1"> <tr> <td>2学期中間考査後</td> <td>1年 9%</td> <td>2年 10%</td> <td>3年 49%</td> <td>全学年 23%</td> </tr> <tr> <td>2学期期末考査前</td> <td>22%</td> <td>32%</td> <td>52%</td> <td>35%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 週末課題や小テストによる計画的自主的な家庭学習習慣の定着、互研授業の実施等による授業の質の向上、文理探究コースの探究活動の充実を図り、学力向上に努めている。 専門学科では、専門教科と普通教科の連携を図り、授業を基本とした課題の提出、小テストによる普通教科の計画的自主的な家庭学習習慣の定着に努めている。 	2学期中間考査後	1年 9%	2年 10%	3年 49%	全学年 23%	2学期期末考査前	22%	32%	52%	35%
2学期中間考査後	1年 9%	2年 10%	3年 49%	全学年 23%							
2学期期末考査前	22%	32%	52%	35%							
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>①平日の家庭学習時間2時間以上の割合 60%以上</td> <td>②教員1人当たり互研授業の年間実施回数 2回以上</td> </tr> </table>	①平日の家庭学習時間2時間以上の割合 60%以上	②教員1人当たり互研授業の年間実施回数 2回以上								
①平日の家庭学習時間2時間以上の割合 60%以上	②教員1人当たり互研授業の年間実施回数 2回以上										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部、特活部、学年等との連携を密にし、進路統一HRなどを取り入れながら、早期に進路目標を立て、その実現に向けて学習に取り組ませる。 学習計画表をもとに、きめ細かに面接指導を行い、家庭学習を支援する。 計画的に週末課題や小テストを実施し家庭学習習慣の定着を図り、課題提出率の向上に努めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 1学期に1回、2学期に1回、互研授業を実施し、授業の質向上に努める。 学習シラバスの作成や教科部会の開催を通して、指導法及び指導内容の検討を行う。 正味50分の授業時間確保に向けて、引き続き生徒・教員共に努力する。 										

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 2 -					
重点項目	学習活動（教科実践力の育成）				
重点課題	日常的な学習意欲の高揚と実践的学習活動の定着				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 国語科や英語科、数学科など普通教科では、スピードテストや小テストの実施により、反復学習の習慣を定着させ学習意欲を高めていく必要がある。 家庭科や水産科など専門教科では、専門学習の理解と定着を図る一環として、検定取得を通して、計画的な学習習慣と学習意欲の向上を目指している。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>①小テストの実施回数(国語科・英語科) 年間20回以上</td> <td>②スピードテストの実施回数(数学科) 年間50回以上</td> </tr> <tr> <td>③各種検定1級合格者数(家庭科) 延べ30名以上</td> <td>④1人当たり検定合格種目数(農業科) 4種目(1年)、6種目(2年)、11種目(3年)</td> </tr> </table>	①小テストの実施回数(国語科・英語科) 年間20回以上	②スピードテストの実施回数(数学科) 年間50回以上	③各種検定1級合格者数(家庭科) 延べ30名以上	④1人当たり検定合格種目数(農業科) 4種目(1年)、6種目(2年)、11種目(3年)
①小テストの実施回数(国語科・英語科) 年間20回以上	②スピードテストの実施回数(数学科) 年間50回以上				
③各種検定1級合格者数(家庭科) 延べ30名以上	④1人当たり検定合格種目数(農業科) 4種目(1年)、6種目(2年)、11種目(3年)				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ①学期毎に実施計画を提示し目標を持って取り組ませる。 ②同じ単元を2～3回繰り返して取り組ませ、反復学習の習慣を身に付けさせる。 ③目標達成のための課題を設定し、学習計画を各自で作成させるなど、学習に対する意識を高めさせる。 ④年間を通じた計画的な指導により、自主的な学習態度を促す指導を行う。 				

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路支援力の向上）																																				
重点課題	進路意識の高揚と進路目標の早期設定																																				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力・適性をつかみきれていないため、進路目標の設定が遅れがちになる傾向がある。（4月進路希望調査の進路未定者：1年32人、2年2人） 第3学年の進路希望状況（人） ※4月調査、その他には公務員志望を含む <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>普通科</td> <td>大学 114</td> <td>短大 10</td> <td>専門 20</td> <td>就職 10</td> <td>他 2</td> <td>合計 156</td> </tr> <tr> <td>農業科学科</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>海洋科学科</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>ビジネス科</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>17</td> <td>2</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>生活福祉科</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>24</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>40</td> </tr> </table> 進路実績が上がっているものの、引き続き学習習慣を定着させ、学力養成に努める必要がある。 進路意識及び学習意欲を高めるための活動や面接の充実が必要である。 		普通科	大学 114	短大 10	専門 20	就職 10	他 2	合計 156	農業科学科	3	1	5	10	1	19	海洋科学科	5	4	2	8	0	19	ビジネス科	8	4	9	17	2	40	生活福祉科	0	7	24	9	0	40
普通科	大学 114	短大 10	専門 20	就職 10	他 2	合計 156																															
農業科学科	3	1	5	10	1	19																															
海洋科学科	5	4	2	8	0	19																															
ビジネス科	8	4	9	17	2	40																															
生活福祉科	0	7	24	9	0	40																															
達成目標	①進路学習の実施回数(各学年・学期) 2回以上(普) 3回以上(専)	②生徒一人当たり面接回数(年間) 4回以上(1・2年) 5回以上(3年)																																			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と各学年が連携を図り、3年間を見通した進路指導を行う。 総合的な学習の時間やホームルーム活動等においてキャリア教育を実践する。 各学年の年間指導計画に基づき、系統的な学習機会を設けて進路を研究し、自己の適性の理解及び将来設計の具体化を図らせる。 																																				

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 4 -

重点項目	学校生活（健全で充実した高校生活）	
重点課題	品性を高めあう態度の育成と衛生管理への意識付け	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 制服の着こなしは徐々に良い方向に向かっている。一方、挨拶に関しては、生徒意識調査において、8割の生徒が「挨拶をしている」と回答しているものの、年14回実施している「氷高さわやかディ」はマンネリ化の傾向にある。 昨年度の歯科治療率は約37.5%であった。虫歯の早期治療を促し、歯の衛生管理を意識付ける必要がある。 	
達成目標	①挨拶に関する生徒意識率の向上 90%以上	②歯科治療率 40%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 「氷高さわやかディ」(年間14回)や生徒校風委員会の早朝挨拶運動に、部活動ごとに参加を要請する。 服装指導なども含めて、教職員の共通理解のもとで、年間を通して粘り強い指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会の際に、歯科治療カードを配布し、長期休業中に治療するよう促す。 治療を要する永久歯があるにもかかわらず、長期休業中に治療しない生徒には、面談を通して治療を促す。

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（地域・家庭との連携強化）	
重点課題	地域や家庭との結びつきを大切にした取り組みの推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した活動への参加を積極的に進めており、地域交流活動への参加者数は、H22年度249名、H23年度309名、H24年度467名と増加傾向にある。 ・P T A活動は、総会・委員会・学年の各研修や行事があるが、保護者の参加割合は45%とまだまだ低い状況である。 	
達成目標	①地域の交流活動等への参加者(年間)	②P T A活動の参加率
	840名以上	60%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスや生徒玄関掲示板に活動案内や活動状況、参加者の感想等を掲示し、生徒の参加意識を高める。 ・生徒会ボランティア推進委員会や専門学科各クラブ活動からも、積極的な参加を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P T Aだよりや「氷高ほっとメール」の充実を図り、保護者への情報発信に努める。 ・他の分掌との連携を図り、多くの保護者にP T A活動への参加を促し、学校の教育活動を理解してもらうよう工夫する。